

研究集会小史

(A short history of our research group) *

小林ゆう治 (Yuji Kobayashi)

Laboratory of Mathematics and Games

この研究集会は、その生い立ちから様々の変遷を経て今日に続いている。その歴史を振り返るのは、今後の活動の継続・発展のためにも有益と考え、ここに小史として記録しておきたい。

事の始まりは、1977年にカリフォルニア大学の田村孝之教授の一時帰国であり、それを機に、山田美雪（島根大学）の主催で第一回の半群論シンポジウムがで開かれた。当時の国内の半群論関連の研究者（山田、井関清、斎藤亨、沼倉克己、藤原強 他）が参加・講演している。そこで、毎年研究集会を大学回り持ちで開催する方針が示された。

大きな転換点は、1990年の京都ICMのサテライトとして国際研究集会が計画されたことである。当初は、山田を代表とし、現地（京都産業大学）責任者伊藤正美で計画されたが、方針の食い違いから、2つの研究集会が分裂して開かれることになった。会議は多くの海外の研究者が参加し大成功であった。伊藤はこれに自信を深め、その後数回にわたり国際会議を開催した。

当初からの半群論シンポジウムは、第16回に Semigroups, Languages and their Related Fields とタイトルを変更し研究分野の拡大を図った。これも、さらなる拡大を目指し、第20回で打ち止めとし、1997年から新たに Algebra, Languages and Computation のタイトルでシンポジウムを継承した。第2-4回は阪大で日本数理解析学会年会として開催した。2006年以降は、大学持ち回りをやめ、京都数理解析の研究集会として毎年開催し、今日に至っている。

紆余曲折がありながら、この研究集会が続いてきたのは、半群論という一分野から出発しながら、時代に合わせ、計算機科学など新しい分野も取り入れる努力をしてきたからだと考える。数学のメインストリームから外れたところにも、面白いことが沢山あることをアピールしてきた。また、自由でゆるい雰囲気が、この会の魅力となっている。この伝統は今後も引き継がれていくことを期待したい。

以下、時系列的に研究集会のタイトル、場所、主催者を記載する。時代の流れの目安として、世代に分けてみたが、厳密なものではない。

*This is a final version and will not appear elsewhere.

第一世代

- 1977: 第1回 半群論シンポジウム (Symposium on Semigroups)
場所：島根大学文理学部 主催者：山田美雪 (M. Yamada)
- 1978: 第2回 東京学芸大 斎藤亨 (T. Saito)
- 1979: 第3回 関西セミナーハウス 藤原強 (T. Fujiwara)
- 1980: 第4回 半群論と関連分野 Semigroup Theory and its Related Fields
山口大学 村田健太郎 (M. Murata)
- 1981: 第5回 城西大学 沼倉克己 (K. Numakura)
- 1982: 第6回 大阪薬科大 吉田峰吉 (M. Yoshida)
- 1983: 第7回 東京学芸大 斎藤亨 (T. Saito)
- 1984: 第8回 島根大学 山田深雪 (M. Yamada)
- 1985: 第9回 鳴門大学 井関清 (K. Iseki)
- 1986: 第10回 城西大学 斎藤亨 (T. Saito)
- 1987: 第11回 立命館大 中嶋史図雄 (S. Nakajima)

第二世代

- 1988: 第12回 徳島大学 小林ゆう治 (Y. Kobayashi)
- 1989: 第13回 京都産業大 伊藤正美 (M. Ito)
- 1990: { Words, Languages and Combinatorics 京産大 伊藤正美 (M. Ito)
Semigroups and Related Fields 島根大学 山田深雪 (M. Yamada)
- 1991: 第15回 島根大学 今岡輝男 (T. Imaoka)
- 1992: 第16回 Semigroups, Languages and their related fields
東邦大学 小林ゆう治 (Y. Kobayashi)
- 1993: 第17回 中央大学 鶴沢正道 (M. Tokizawa)
- 1994: 第18回 東京学芸大 滝沢清 (K. Takizawa)
- 1995: 第19回 島根大学 庄司邦孝 (S. Shoji)
- 1996: 第20回 茨城大学 松田隆輝 (R. Matsuda)

International Conference organized by Ito (Kyoto Sangyo Univ.)

- 1990: Words, Languages and Combinatorics
- 1992: WLC II
- 2000: WLC III
- 2002: 6th Developments in Language Theory
- 2008: 12th DLT

第三世代

- 1997: 第1回 代数・言語・計算 Algebra, Languages and Computation
会津大学 C. Nehaniv
- 1998: 第2回 大阪大学 (JAMS Annual Meeting) 今岡輝男 (Imaoka)
- 1999: 第3回 大阪大学 今岡輝男 (Imaoka)

- 2000: 第4回 大阪大学 今岡、庄司 (Imaoka, Shoji)
2001: 第5回 島根大学 今岡、庄司 (Imaoka, Shoji)
2002: 第6回 神奈川工大 米田二郎、小林 (J. Komeda, Kobayashi)
2003: 第7回 東邦大学 竹内泉、小林 (I. Takeuchi, Kobayashi)
第8, 9回 RIMS 研究集会 (2005, 2006) と兼ねる
2006: 第10回 東邦大学 足立智子、小林 (T. Adachi, Kobayashi)

RIMS 研究集会

- 1977: 半群論セミナー 斎藤亨 (T. Saito)
1980: 半群とその周辺 井関清 (K. Iseki)
1989: 代数的コード理論と関連分野 伊藤正美 (M. Ito)
2001: 代数的半群、形式言語及び計算理論 今岡輝夫 (T. Imaoka)
2002: 代数系のアルゴリズムと計算論 小林ゆう治 (Y. Kobayashi)
代数系、形式言語および通常・非通常計算理論 伊藤正美 (Ito)
2005: 代数系、形式言語と計算論 小林ゆう治 (Kobayashi)

第四世代

- 2006: 代数、言語、計算システムにおけるアルゴリズム問題 庄司邦孝 (T. Shiji)
2007: 代数、形式言語、計算システム理論とその応用 庄司邦孝 (Shoji)
2008: 代数、言語のアルゴリズムと計算論 米田二良 (J. Komeda)
2009: 代数系アルゴリズムと言語および計算理論 米田二良 (Komeda)
2010: 代数と言語のアルゴリズムと計算理論
辻佳代子、国持 (K. Tsuji, Kunimochi)
2011: 代数と言語のアルゴリズムと計算理論 辻佳代子、国持
2012: 代数系および計算機科学基礎 山村明弘 (A. Yamamura)
2013: 代数とコンピュータサイエンス 山村明弘 (Yamamura)
2014: 計算機科学における論理・代数・言語 近藤通朗 (T. Kondo)
2015: 代数系・論理・言語と計算機科学の新たな接点 近藤通朗 (Kondo)
2016: 代数系、論理、言語と計算科学 堀内清光 (K. Horiuchi)
2017: 言語、論理、代数系と計算科学の展開 堀内清光 (Horiuchi)
2018: 代数系、論理とその周辺領域 国持良行 (Y. Kunimochi)
2019: 代数系、論理、言語と計算機科学の周辺 足立智子 (T. Adachi)
2020: 代数系、論理、言語と計算機科学の周辺 II 足立智子、国持

第五世代

- 2021: 論理・言語・代数系と計算機科学の周辺領域 (予定) 岩見宗弘 (M. Iwami)